

【レクチャー】

保育・教育現場での楽しい表現活動 (2)

Lectures :

Fun expressive activities in childcare / education settings (2)

飯泉 祐美子(帝京科学大学)

Yumiko IIZUMI (Teikyo University of Science)

(キーワード)

表現活動、幼年音楽教育、音楽科教育、保育者・教員養成

はじめに

表現活動とは、「当事者が心の中の思いを楽しく表出するということがありのままの素敵な表現となる」ということを2021年のレクチャーで述べた。

今回も引き続き心の中の思いを楽しく表現する活動について、実際に演じたり体験していただきながら進めた。

楽しい表現活動 (報告)

(1) ちゃつぽ (手遊び)

ひとりで歌いながら行う手遊びである。歌の流れにのって、ちゃつぽにふたをする、動きとしては単純な遊びであるが、多様な遊び方がある。

「ひとりであそぶ」「速さに変化をつけてひとりであそぶ」「ふたり組になってあそぶ」「速さに変化をつけて二人組であそぶ」「大勢であそぶ」を体験した。

(2) ケチャ風お茶づけ (ボイスアンサンブル)

山田俊之 ケチャ風お茶づけ

作詞：山田俊之

作曲：山田俊之

近年、インクルーシブ教育に使用されることの多い「山ちゃんシリーズ」の教材である。この教材を用いてボイスアンサンブルを体験し

た。楽譜を用いず、モチーフのみ提示し、オスティナートであることを説明し行った。

グループに分かれ音楽を形づくっている要素による表現の工夫も見られ、楽しい活動となった。

(3) 勇気 100% (ボディパーカッション)

レーベル ポニーキャニオン

作詞 松井五郎

作曲 馬飼野康二

アニメ『忍たま乱太郎』の主題歌として発表された。光 GENJI のシングル曲である。かなり長寿の曲ではあるが、幼児、児童に広く知られ、親しまれている一曲である。

この曲にオリジナルボディパーカッションを創作し、会場参加者で楽しんだ。

オリジナルのボディパーカッションは以下のような構成である。

- ① 拍にのって、ひとりで手をたたく
- ② 拍をもとに変化したリズムをひとりで手をたたく
- ③ 身体のさまざまな部位をたたく
- ④ 二人組になり手合わせなども行う

表現活動を終えて

最後には、楽しく、笑顔で終了することができ、表現することの満足感を得ることができた。